

令和元年 雲ヶ畑松上げ レポート

夜の祭りに出没すると噂されている高橋夫婦です。

もう去年のことになってしまいましたが令和最初の雲ヶ畑松上げをレポート致します。

雲ヶ畑の松上げは毎年8月24日に行われます。雲ヶ畑の松上げは広河原や花背等で行われているような巨大な松明の先端に取り付けた籠に火の付いた松明を投げ入れるのではなく、組んだやぐらに松明を文字の形に取り付け夜空に火文字を浮かび上がらせます。出谷町と中畑町の2か所で時間差で点火されます。

現地へ行くための公共交通機関は北大路駅前から1日2往復の自治会バス「もくもく号」がありますが、時間的に松上げを見ることは不可能です。自力で何かしらの手段を講じなければなりません。道路も狭く、駐車場も無いので自家用車利用も現実的ではありません。

私どもはいつも通り、自転車で往復しました。当日の天気予報とにらめっこした結果、少しは雨に降られるとの予想の元、出発。平地では雨が降っていませんでしたが、府道61号線(通称雲ヶ畑街道)に入ると、山間地になるため、時折、霧雨に出会うようになりました。

出谷町の松上げ開始は8時頃でしたが、予定通り7時半に福蔵院に着きました。洛雲荘のあるバス終点「雲ヶ畑岩屋橋」の一つ前の「福蔵院前」バス停から階段を登ったところにあります。



駒札

普段の福蔵院本堂

普段は画像のように人がおらず静かですが、この日は既に50人位の老若男女が集まっていました。お見受けするところほとんどが地元在住あるいは出身の方のようでした。見学させて頂くので護摩木を奉納しました。すると「奥に千手観音さんがいらっしゃるので拜んで行って下さい。」と有難いお言葉を頂きました。遠慮無く、玄関から本堂に上がり、渡り廊下を渡って観音堂へ入りました。観音像は撮影不可でしたが間近で拝ませて頂きました。中々の観音様でした。



普段の福蔵院観音堂



出谷町の松上げ場所の山

点火時刻が近付くと岩屋橋に向かう北側の山腹にポツポツと火が見え始めました。8時になって福蔵院の庭から合図を送ると火の勢いが見る見る強くなり、段々と判読出来るようになりました。予想通り『令』でした。



『令』

文字が完全に浮かび上がると灯の列がこちらに向けて下山してきました。周りの方から、「これから松上げの火で焚火をしてスルメを焼くから一緒にどうぞ。」とこれまた有難いお言葉を頂きました。後ろ髪を引かれる思いが十分ありましたが、次の中畑町があるので、お礼を述べてから自転車に飛び乗り、4つ先の「高雲寺前」バス停へ急行しました。下り坂の上、走り慣れた道なので、ものの2分で到着。



駒札



高雲寺参道入口

暗くて急で雨に濡れて滑る階段を 50m 以上登ると高雲寺がありました。

ここも普段はひとがいないようでした。しかし、この日は辺りが真っ暗の中、これまた老若男女が登って来ました。部外者は私共だけだったようです。

寺の南東方向、賀茂川源流から中津川が分かれる出合橋の向いの山腹に火が見えました。賀茂川を隔てて 300m はあるように見えたのですが、若中の方が「オーイ」と声を掛けると「オーイ」と明瞭な返答が返って来たのでビックリしました。しばらくして点火。

その時、隣にいらした地元出身の男性が私共に親切に説明を始めてくれました。

ここの松上げの起源は惟喬親王をお慰めするために始まったものであると誇りを持って語っていらっしやいました。

やぐらは最初倒して置いてあり、その状態で点火してからやぐらを起こすそうです。

また、中畑町のやぐらは、点火した時点では中津川の方角である右を向いており、しばらくしてから高雲寺の方角へ向けて回転させるそうです。その理由は、昔、やぐらを立てている山が中津川沿いにある洞谷寺の所有だったので敬意を表しているからだそうです。

若中の構成人員も、他の地区同様、高齢化で人数が足りず、協力してくれる団体が頼りとのことでした。

浮かび上がる文字は出谷町が『令』と来れば中畑町は『和』と行きたいところですが、『上』でした。事前に両地区の若中相互間で文字決定の情報交換があるのかどうかは訊き漏らしました。



中畑町の松上げ場所の山



『上』

「へん」と「つくり」のある文字は出来ない、とのお話でした。

火勢が落ち着くと出谷町同様、灯の列がこちらへ向かって移動し始めました。賀茂川源流への降り口には先程、消防車が停まっていたのでここまでの距離がわかっていましたが、あっと言う間に若中が寺に登って来ました。



中畑町若中帰還



焚火の前で記念撮影

出谷町とは異なり、焚火の前で記念撮影したら、即、お開きになりました。

帰り始める頃から雨が本格的に降り出し、ずぶ濡れになりながら鴨川のサイクリングロードを爆走して帰宅しました。

他の地区の松上げが『動』とすると、松明の投げ上げや太鼓の音が無いので、雲ヶ畑の松上げは『静』とも言えますが、決してそうではなく、山に生きる男たちの力強さを感じた祭でした。

また、交通の便が悪く観光客があまり入って来れないので、親戚や知り合いばかりの家庭的な雰囲気ですが、排他的ではなくホンワカとしていました。

後日談：洞谷寺へ行ってみました。



出合橋の道標



駒札



中畑町の松上げ場所の山を洞谷寺参道から望む

